



**DATA
HORIZON**

東京証券取引所
市場マザーズ
〈証券コード:3628〉

平成22年3月期第2四半期 決算説明会

株式会社 データホライゾン



2009年11月9日
<http://www.dhorizon.co.jp>

1. 2010年3月期 第2四半期累計業績

- 1 第2四半期累計 サービス・製品別連結売上高
- 2 第2四半期累計 連結損益計算書
- 3 第2四半期累計 連結営業利益 前年同期比較分析第2四半期末
- 4 第2四半期末 連結貸借対照表
- 5 第2四半期累計 連結キャッシュ・フロー計算書

2. 2010年3月期 連結業績予想

3. 医療情報サービスの展開

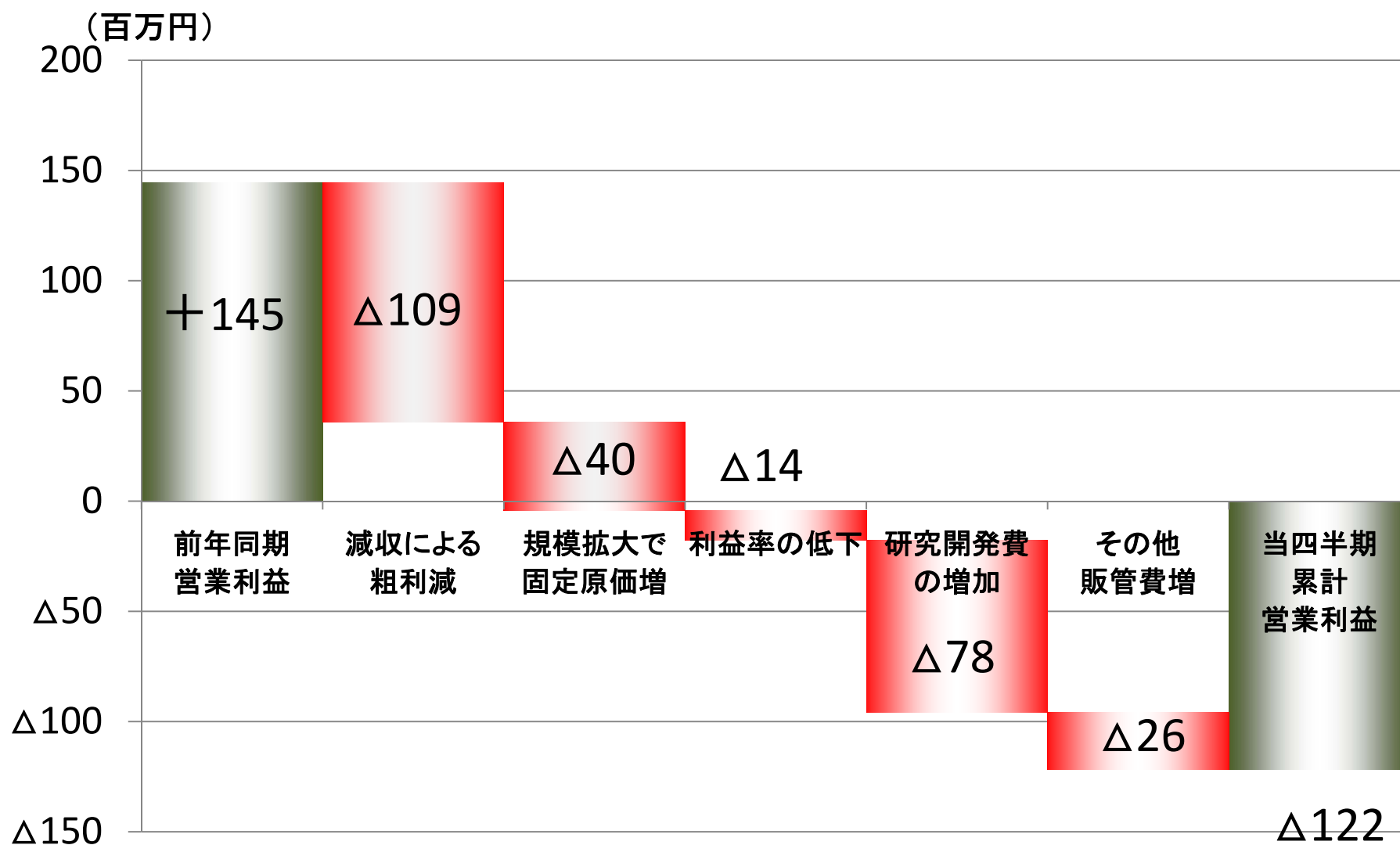
1-1 第2四半期累計 サービス・製品別連結売上高

	前年同期 (2009/3期)		当第2四半期累計 (2010/3期)		前年同期比較	
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	増減額 (百万円)	増減率
ジェネリック医薬品通知サービス	112	15.3	266	50.6	+154	137.1%
その他保険者向けサービス	15	2.0	24	4.5	+9	60.8%
保険者向け情報サービス 計	127	17.3	290	55.1	+163	128.3%
製薬会社向け情報サービス	280	38.3	-	0.0	△280	△100.0%
医療関連情報サービス 計	407	55.6	290	55.1	△117	△28.8%
病院向けシステム	131	17.9	103	19.6	△28	△21.2%
保険薬局向けシステム	179	24.4	121	23.0	△58	△32.4%
医療関連情報システム 計	310	42.3	224	42.6	△86	△27.6%
医療関連情報事業 計	717	97.9	514	97.7	△203	△28.3%
その他	15	2.1	12	2.3	△3	△20.4%
売上高 合計	732	100.0	526	100.0	△206	△28.1%

1-2 第2四半期累計 連結損益計算書

	前年同期実績 (2009/3期)		当第2四半期累計 (2010/3期)		前年同期比較	
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	増減額 (百万円)	増減率
売上高	732	100.0	526	100.0	△206	△28%
売上原価	345	47.1	301	57.3	△44	△13%
売上総利益	387	52.9	225	42.7	△162	△42%
販売管理費	242	33.1	346	65.8	+104	43%
研究開発費	16	2.1	94	17.8	+78	498%
営業利益	145	19.8	△122	-23.1	△266	-
経常利益	131	17.9	△122	-23.3	△253	-
四半期純利益	74	10.1	△76	-14.5	△151	-

1-3 第2四半期累計 連結営業利益 前年同期比較分析



1-4 第2四半期 連結貸借対照表

	前期末 (2009/3期)		当第2四半期末 (2010/3期)		対前期末増減	
	金額 (百万円)	構成比	金額 (百万円)	構成比	金額 (百万円)	主な要因 (百万円)
流動資産	779	60.6%	590	54.0%	△189	現預金167減、有価証券(譲渡性預金)100減、仕掛品74増
固定資産	507	39.4%	503	46.0%	△4	ソフトウェア(仮勘定含む)17増、同償却費45
資産合計	1,286	100.0%	1,093	100.0%	△193	
流動負債	266	20.7%	152	13.9%	△114	前期確定税金の納付による未払税金の減少 107
固定負債	35	2.7%	32	2.9%	△3	長期借入金の返済による減少
負債合計	301	23.4%	184	16.9%	△117	
資本金	452	35.1%	452	41.3%	-	
資本剰余金	152	11.8%	152	13.9%	-	
利益剰余金	379	29.5%	303	27.7%	△76	四半期純損失76
株主資本	983	76.4%	906	83.0%	△76	自己資本比率が6.7%上昇
評価・換算差額等	△1	-0.1%	△1	-0.1%	0	
少数株主持分	3	0.2%	3	0.3%	0	
純資産合計	985	76.6%	909	83.1%	△76	
負債・純資産合計	1,286	100.0%	1,093	100.0%	△193	

1-5 第2四半期累計 連結キャッシュ・フロー計算書

金額単位：百万円

	前年同期 (2009/3期)	当第2四半期累計 (2010/3期)	前年同期比較	増減額の主な要因
営業活動によるキャッシュ・フロー	122	△228	△350	
税金等調整前当期純利益	131	△122	△253	
減価償却費	35	59	24	
売上債権の増減額（△は増加）	48	22	△26	
たな卸資産の増減額（△は増加）	△26	△74	△48	ジェネリック医薬品通知サービスの仕掛品増加
仕入債務の増減額（△は減少）	△28	△6	22	
法人税等の支払額	△40	△89	△49	当第2四半期累計期間に前期分の確定納付
その他	2	△17	△20	
投資活動によるキャッシュ・フロー	△112	164	276	
有価証券の増減額（△は増加）	-	100	100	当第2四半期累計期間に譲渡性預金が満期
有形固定資産の取得による支出	△28	△5	23	
関係会社株式の取得による支出	△5	△10	△5	
無形固定資産の取得による支出	△76	△17	58	ソフトウェア計上が減少し研究開発費が増加
定期預金の払戻しによる収入	-	100	100	当第2四半期累計期間に定期預金が満期
その他	△3	△3	0	
財務活動によるキャッシュ・フロー	246	△3	△249	
短期借入金の純増減額	△50	-	50	
長期借入金の返済による支出	△3	△3	-	
株式の発行による収入	299	-	△299	前年同期は、上場前の公募増資
現金及び現金同等物に係る換算差額	△0	△0	0	
現金及び現金同等物の増加額	256	△67	△322	
現金及び現金同等物期首残高	145	271	126	
現金及び現金同等物期末残高	401	204	△197	

1. 2010年3月期 第2四半期累計業績

2. 2010年3月期 連結業績予想

1 連結通期業績推移グラフ

2 通期予想 サービス・製品別連結売上高

3 通期予想 連結損益計算書

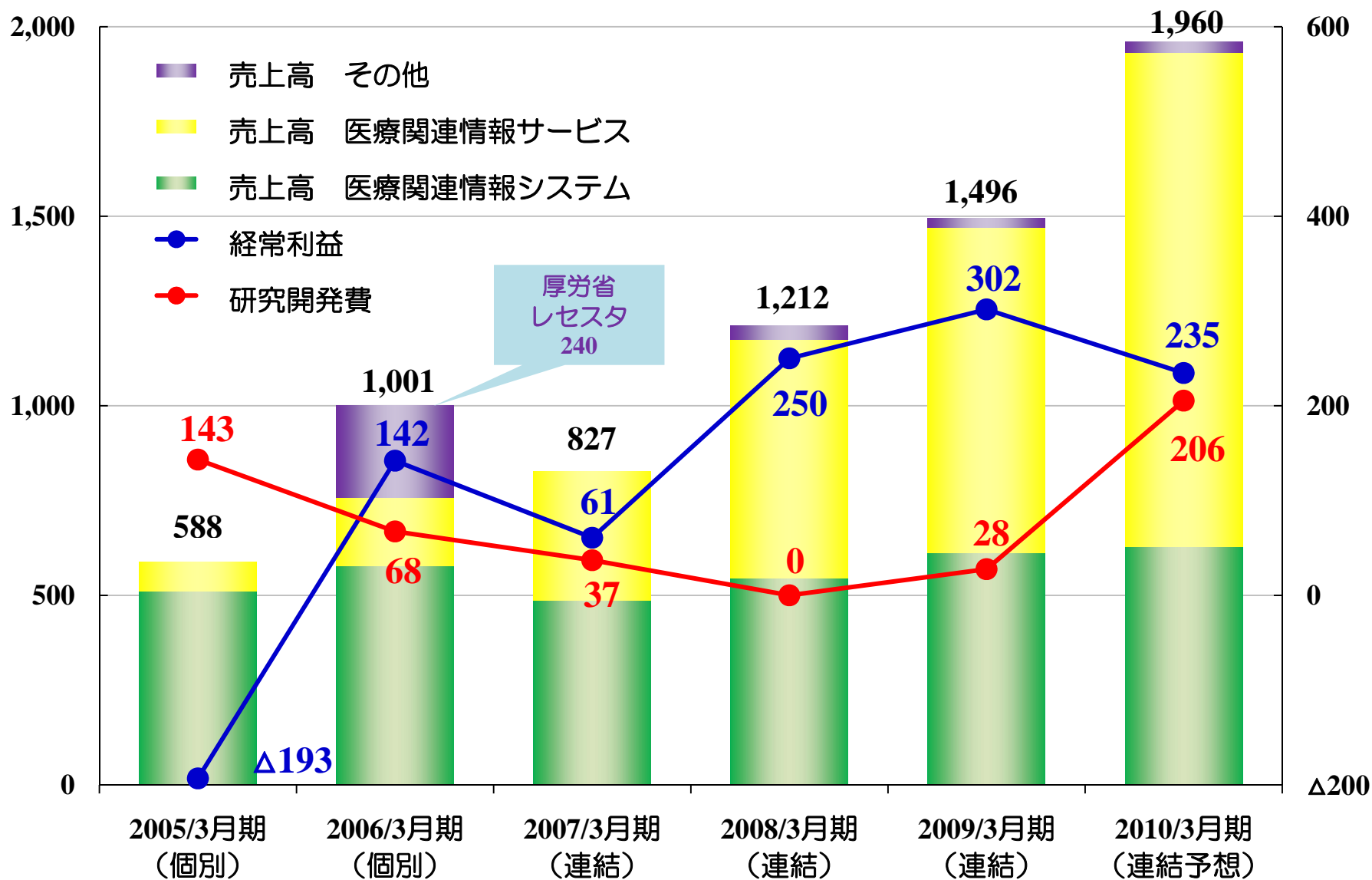
4 通期予想 連結営業利益 前期比較分析

5 研究開発活動の推移

6 配当方針

3. 医療情報サービスの展開

2-1 連結通期業績推移グラフ



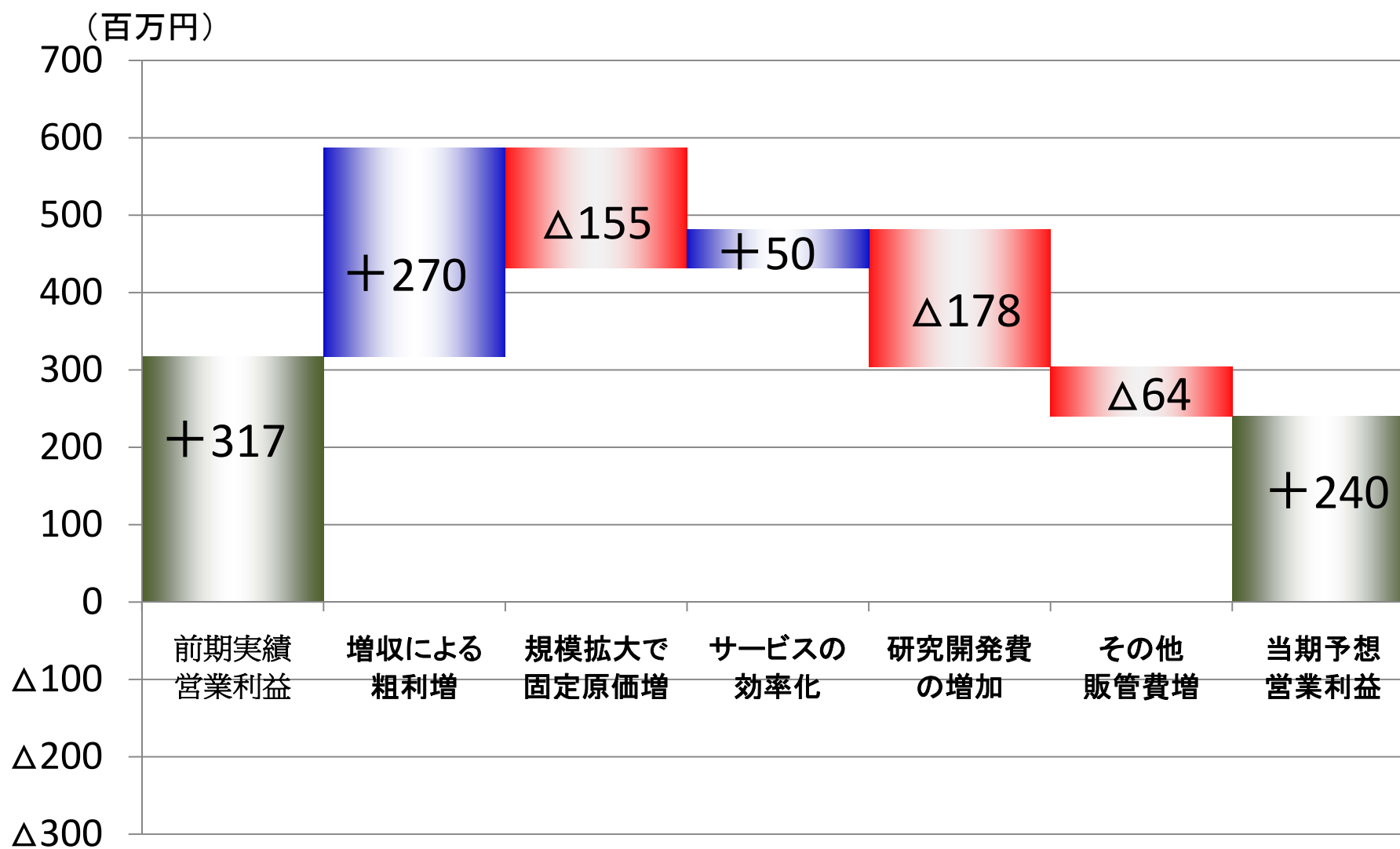
2-2 通期予想 サービス・製品別連結売上高

	前期実績 (2009/3期)		通期業績予想 (2010/3期)		前期比較	
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	増減額 (百万円)	増減率
ジェネリック医薬品通知サービス	343	23.0	931	47.5	+588	171.1%
その他保険者向けサービス	34	2.3	73	3.7	+38	112.2%
保険者向け情報サービス 計	378	25.3	1,004	51.2	+626	165.8%
製薬会社向け情報サービス	480	32.1	300	15.3	△180	△37.5%
医療関連情報サービス 計	858	57.3	1,304	66.5	+446	52.0%
病院向けシステム	290	19.4	257	13.1	△33	△11.3%
保険薬局向けシステム	323	21.6	372	19.0	+49	15.1%
医療関連情報システム 計	613	41.0	629	32.1	+16	2.6%
医療関連情報事業 計	1,471	98.3	1,933	98.6	+462	31.4%
その他	25	1.7	27	1.4	+2	8.8%
売上高 合計	1,496	100.0	1,960	100.0	+464	31.0%

2-3 通期予想 連結損益計算書

	前期実績 (2009/3期)		通期業績予想 (2010/3期)		前期比較	
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	増減率
売上高	1,496	100.0	1,960	100.0	+464	31%
売上原価	686	45.9	980	50.0	+294	43%
売上総利益	810	54.1	980	50.0	+170	21%
販売管理費	493	33.0	741	37.8	+248	50%
研究開発費	28	1.9	206	10.5	+178	642%
営業利益	317	21.2	240	12.2	△77	△24%
経常利益	302	20.2	235	12.0	△67	△22%
当期純利益	178	11.9	135	6.9	△43	△24%

2-4 通期予想 連結営業利益 前期比較分析



2-5 研究開発活動の推移

(単位:百万円)

	2008/3期 (実績)	2009/3期 (実績)	2010/3月期 (予想)	前期比較
ソフトウェア(仮勘定含む) a	124	173	22	△ 151
研究開発費 b	0	28	206	178
研究開発活動合計 a+b	125	200	227	27
減価償却費(ソフトウェア)	17	54	92	38
ソフトウェア(仮勘定含む)残高	125	244	173	△ 70

当社のソフトウェア制作は、その内容により、研究開発費、ソフトウェア、売上原価に区分されます。

ソフトウェア制作のうち、ソフトウェアと研究開発費に計上される研究開発活動の規模は、2008年3月期125百万円、2009年3月期200百万円、2010年3月期227百万円で推移する予定です。

2010年3月期の研究開発活動の規模は、前期に比べ27百万円増加の227百万円ですが、内容が研究開発中心となるため、研究開発費は139百万円増加し、ソフトウェアへの計上が151百万円減少する見込みとなりました。

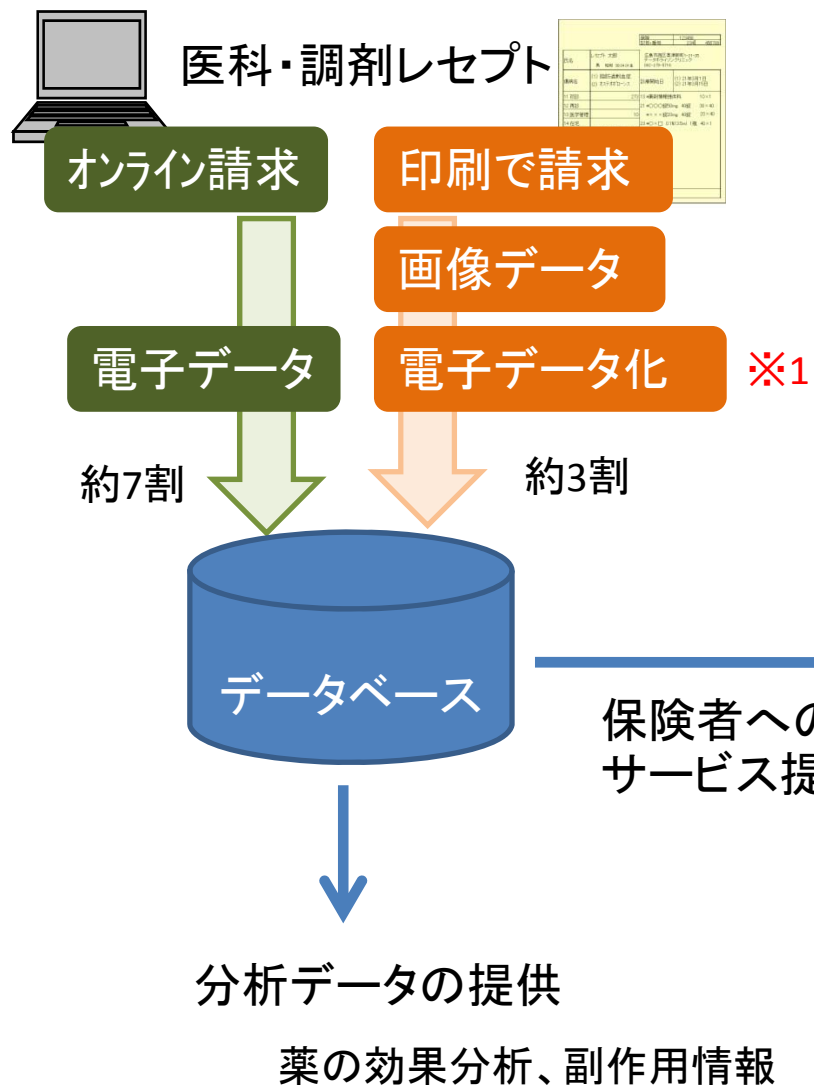
当期の主な研究開発費案件は、次の通りです。

- ・ジェネリック医薬品通知サービスにおけるレセプト分析件数増加への対応および、レセプトデータを利用した保健事業支援システム等の機能強化のための開発。
- ・病院向けにDPC(包括請求)のレセプトチェックシステムの開発及び、保険薬局システムの機能強化。

- ◆ 2010年3月期末より、配当開始
- ◆ 配当方針：連結配当性向30%を目処
 - ☆ 予想当期純利益：135百万円（2009年8月3日公表）
 - ・ 当初予想(2009年5月8日公表)に対し、△70百万円減少
 - ・ ただし、1株当たり配当金は当初予想通り
 - ☆ 配当金（年間）：1株につき17.5円
（株式分割前は35.0円）
 - ☆ 配当金総額：62百万円
 - ☆ 配当性向：46.0%

1. 2010年3月期 第2四半期累計業績
2. 2010年3月期 連結業績予想
3. 医療情報サービスの展開
 - 1 医療情報サービスの全体像
 - 2 医療費分解解析に関する特許
 - 3 医療情報サービスの展開

3-1 医療情報サービスの全体像



※1 レセプトOCR変換

レセプトの画像データを電子データに変換する
当社独自の技術

※2 医療費分解分析の特許(特許第4312757号)

レセプトの内容を病名毎に分解分析し、病名ごとの医療費を算出するプログラム

- ジェネリック医薬品通知サービス
生活習慣病の患者を中心にジェネリック医薬品に変えた場合の差額を通知
・通知書に患者の健康と医療費適正化のための情報を記載と、保険者に保健事業支援のサービス提供を計画 ※2
- 保健事業支援システム
統計分析や指導用リストの抽出を行い、保健指導を効率的にサポート ※2
- レセプト点検システム
レセプトの内容に過誤が無い点検

3-2 医療費分解解析に関する特許※(特許第4312757号)



レセプト			
		保険 記号・番号	123456 234 456789
氏名	レセプト 太郎	広島市西区草津新町1-21-35 データホライゾンクリニック 082-279-5716	*厚生労働省指定のコードに変換 (特許とは、別の技術)
傷病名	(1) 脂肪過剰血症 (2) オステオポロシス	診療開始日	(1) 21年3月1日 (2) 21年3月15日
11 初診	273	13 *薬剤情報提供料	10×1
12 再診		21 *〇〇〇錠50mg 40錠	30×40
13 医学管理	10	*×××錠20mg 40錠	20×40
14 在宅		23 *〇×□ 0.1%13.5ml 1瓶	40×1
20 投薬	21 内服調剤	2,000	
	23 外用調剤	40	
	25 処方		
30 注射			
40 処置			
50 手術			
60 検査			
請求点		2,323	

※正式名称
医療費分解解析装置、医療費分解
解析方法およびコンピュータプログラム
に関する特許(特許第4312757号)

2724007 高脂血症

7330006 骨粗鬆症



医療費分解分析について

レセプトには、複数の傷病名が記載され、使用した医薬品、検査、処置、保険点数は傷病名ごとに分類されることなく記載されており、傷病名ごとの医療費は明確ではありません。

この特許により、傷病名ごとに医薬品、検査、処置などの保険点数を分解し、傷病名ごとの医療費を計算することができます。

3-3 医療情報サービスの展開

保険者へジェネリック医薬品通知サービスから保健事業へ移行を促し、契約の継続、新規契約の拡大へ

① ジェネリック医薬品通知サービスの高付加価値化

通知書に重複服薬、禁忌服薬等に対する案内を記載し、患者の健康と医療費の適正化を目指すことで、出始めた競合他社との差別化を図る。

② 保健事業システムの機能強化

呉市等の要望を取り入れて重複服薬、禁忌服薬、重複受診、頻回受診、受診放置等の保健指導対象者を抽出し、効率的な保健指導を行える保健事業支援システムに強化する。

③ 全国への営業展開

来年度の受注のため予算編成までに、NTTデータを中心に全国の自治体へ営業展開中。

④ 協会けんぽ広島支部のパイロット事業の分析結果の提供

広島支部での通知の成果とこれを基に、全国へ展開した場合の予測を12月に報告を行う。現在、全国支部への展開を提案中。

- 本説明会及び本説明資料には、データホライゾンの将来についての計画や戦略、業績見通し等の記述が含まれております。
- これら将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいております。
- 実際の業績等は様々な要因により、当社の見通しとは異なる可能性がありますので、ご承知おきください。

◆ 本資料に関するお問合せ先 ◆
株式会社 データホライゾン 経理部(IR担当)
TEL : 082-279-5525